

$^{201}\text{Tl}$  スキャンの集積度は心のそれと比較し心と同程度の集積を示したものを +2, 心より低いバックグラウンドより高いものを +1, 全く集積のないものを 0 とした。同様に  $^{67}\text{Ga}$  の集積度は肝と比較し +2, +1, 0 とした。結果は,  $^{201}\text{Tl}$  スキャンを施行した 7 例全例が陽性所見を示した。しかし, 集積度と組織学的所見との関連性は認められなかった。また,  $^{67}\text{Ga}$  スキャンは 3 例に施行したがうち 2 例が +1 の集積度を示した。しかし, 組織学的にはいずれも良性であった。また残り 1 例は組織学上浸潤型であったが  $^{67}\text{Ga}$  の集積は認められなかった。以上より, 胸腺腫の検出率は  $^{201}\text{Tl}$  スキャンの方が  $^{67}\text{Ga}$  よりすぐれ今回検討したうちでは腫瘍が 30 g のものまで検出可能であった。しかし,  $^{201}\text{Tl}$  スキャン,  $^{67}\text{Ga}$  スキャンともに集積度と組織学的所見との関連性は認められず, 胸腺腫に関しては良・悪性の鑑別は困難であると思われた。

### 23. $^{201}\text{Tl}$ -chloride scintigraphy による甲状腺癌頸部リンパ節転移巣の検出能の検討

吉田 宏	松尾 定雄	安田 鋭介
矢橋 俊文	岩田富貴子	樋口ちづ子
市川 秀男	木村 得次	金森 勇雄
中野 哲		(大垣市民病院・放)
		(特殊放射線センター)
佐々木常雄	石口 恒男	(名大・放)

今回, われわれは,  $^{201}\text{Tl}$ -chloride scintigraphy による甲状腺癌頸部リンパ節転移巣の検出能を手術にて確定診断された 16 症例 (43 病巣) について検討した。(1) 甲状腺癌リンパ節転移巣の検出率は初回手術時転移巣 26 病巣中 11 病巣 42%, 術後再発巣 17 病巣中 15 病巣 88% であった。(2) 部位別検出率は甲状腺と重なる喉頭前, 気管前・旁, 甲状腺旁リンパ節では 21 病巣中 8 病巣 38% と低率であったが, 内深頸, 外深頸リンパ節は 22 病巣中 18 病巣 82% と高率であった。(3) early, delayed scan による描出は, early scan で 17 病巣中全例, delayed scan では 9 病巣 53% と early scan による検出能が優っていた。(4) リンパ節の描出度は, 明瞭に描出されたものが, 初回手術時転移巣で 11 病巣中 1 病巣, 術後再発巣で 15 病巣中 10 病巣と術後再発巣の描出能が優れ, また, 大きさについては, 再発巣の場合, アズキ大のものも描出した。

以上, 甲状腺癌リンパ節転移巣における本法の検出率は高く, 大きさについてもアズキ大のリンパ節をも描出

しえた。さらに, 気管旁リンパ節等, 触知不能な転移巣をも検出できる点, 本法の臨床的有用性はきわめて高いものと思われる。しかし, 甲状腺が残存する場合, その描出は淡く, あるいは重なることがある点, 注意を要し, それらを踏まえた熟読および  $^{99\text{m}}\text{Tc-O}_4^-$  を用いたシンチグラムの併用が肝要である。

### 24. 流動食を用いた RI 胃排出機能検査 その 2 糖尿病患者の gastric emptying time

多田 明	油野 民雄	小泉 潔
利波 紀久	久田 欣一	(金大・核)
荒木 一郎	上野 敏男	(同・二内)

市販されている流動食「オクノソー」と  $^{99\text{m}}\text{Tc}$  スズコロイド 200  $\mu\text{Ci}$  による胃排出機能検査を 47 症例に対して 60 回検査を施行した。内訳は正常者 9 例, 糖尿病患者 (DM) 21 例, その他 17 例である。DM 群 21 例は男性 10 例, 女性 11 例, 年齢 21 歳~73 歳, DM 歴は, 0~30 年であった。DM における合併症の有無とその数と emptying の相関を検討した。正常群の GET は  $62.5 \pm 7.7$  分であり正常範囲は, 47 分~78 分とした。DM 群全体では  $66.4 \pm 25.1$  分であった。合併症のない 7 例では  $56.0 \pm 21.9$  分, 合併症のある群では  $71.6 \pm 25.7$  分であった。合併症が 3 つ以上ある群では GET が  $86.8 \pm 26.9$  分と正常群, 合併症のない DM 群にくらべ有意に遅くなっていた。また, 正常よりも早い emptying を示した 6 例の内訳は, 4 例が合併症のないもの, 2 例が peripheral neuropathy のみを示しており, 軽度 DM 群で GET が早くなる傾向が認められた。FBS と GET の相関はなかったが, FBS が高い群で GET が早い傾向はあった。体重, 治療法, DM 歴と GET の間に相関は認められなかった。

### 25. $^{67}\text{Ga}$ の生体組織での結合酸性ムコ多糖について

安東 醇	安東 逸子	(金大医短)
------	-------	--------

$^{67}\text{Ga}$  の腫瘍組織での結合物質は酸性ムコ多糖であろうと, われわれが最初に推定 (1977 年) し, ついで腫瘍および肝臓から  $^{67}\text{Ga}$ -酸性ムコ多糖を最初に分離し報告した (1979 年)。 $^{67}\text{Ga}$  結合酸性ムコ多糖の 1 つはウロン酸を含まない酸性ムコ多糖 (ケラタン硫酸等) であると報告してきたが, この点を明らかにするために本研究を行った。